

食品に関するリスクコミュニケーション
- 日本における牛海綿状脳症（BSE）対策に関する意見交換会 -
の概要について

食品安全委員会では、今後のプリオン専門調査会などにおける議論の参考とするため、また、広く関係者の意見を議論に反映させていくため、厚生労働省、農林水産省、都道府県などの協力を得て、平成16年10月15日の我が国における牛海綿状脳症（BSE）対策に関する諮問の後、平成17年1月17日までに47都道府県50会場で意見交換会を開催した。

その実施状況は、以下のとおり。

．各地における意見交換会のプログラム

- 1．「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 」の内容とプリオン専門調査会における議論について説明
食品安全委員会委員又はプリオン専門調査会専門委員
- 2．リスク管理省庁からの諮問の考え方について
厚生労働省及び農林水産省担当者
- 3．会場との意見交換
（当日、意見・質問用紙に記入提出された事項を中心に、1時間程度実施）

（表1．開催月日・場所）

開催日		開催日	
平成16年			
11月8日（月）	釧路	12月13日（月）	京都・名古屋
11月9日（火）	帯広	12月14日（火）	津・岐阜
11月10日（水）	旭川	12月15日（水）	福井
11月11日（木）	北見	12月16日（木）	金沢・富山
11月12日（金）	宇都宮	12月20日（月）	高知
11月15日（月）	福岡・佐賀	12月21日（火）	高松
11月16日（火）	長崎	12月22日（水）	松山
11月17日（水）	熊本・鹿児島	12月24日（金）	千葉
11月18日（木）	宮崎		
11月19日（金）	那覇		
11月21日（日）	大分		
11月22日（月）	前橋	平成17年	
11月23日（祝）	大津	1月6日（木）	水戸
11月24日（水）	岡山	1月7日（金）	横浜・さいたま
11月25日（木）	大阪・神戸	1月11日（火）	静岡
11月26日（金）	徳島	1月12日（水）	長野
11月29日（月）	和歌山	1月13日（木）	甲府
11月30日（火）	奈良	1月14日（金）	新潟
12月1日（水）	鳥取	1月17日（月）	東京
12月2日（木）	松江		
12月3日（金）	山口・広島		
12月8日（水）	山形・仙台		
12月9日（木）	盛岡・青森		
12月10日（金）	秋田		

福島県については、10月20日（水）「ふくしま食の安全・安心シンポジウム」の際に、実施

．全国各地での意見交換会で出された主な意見等

BSE 及び BSE 対策一般について

- ・ 国内対策が十分講じられ、vCJD のリスクは十分低減されていることは理解できるが、輸入牛肉（特に輸入再開が議論されている米国産牛肉）については同等の対策が講じられているとはいえないのではないかと。
- ・ 欧米と同様に vCJD のリスクは飼料規制と SRM の除去で低減できるのであり、検査はサーベイランスの目的で行うと説明すべき。また、対策は国際的に整合性のとれたものとすべき。
- ・ この時期に種々の対策の見直しをしようとするのは、やはり、米国産牛肉の輸入再開が目的なのではないかと。
- ・ BSE 問題は政府の失態によって生じたのに、今、施策を緩和するのは尚早ではないかと。
- ・ 早急に国内 BSE 感染の原因を解明すべき。
- ・ 末梢神経からも微量ながら異常プリオンが発見されたとの報道があったが、大丈夫なのか。
- ・ 同居牛から 1 頭も陽性牛が出ていないのだから、殺処分について検討すべき。

検査について

- ・ 消費者の安心のために全頭検査を継続すべき。経過措置は 2 重基準で不安を増幅するのではないかと。
- ・ 検査してもしなくてもリスクに変わりのない 20 ヶ月齢以下の牛の検査は止めるべき。経過措置も混乱の元ではないかと。
- ・ 自治体が全頭検査を行う場合は期間を区切らず助成すべき。
- ・ 生体検査や 20 ヶ月齢以下でも判定できるような検査技術の開発、改善を早急に行うべき。
- ・ 20 ヶ月齢以下の牛肉について、検査済み、未検査のものが分かるようにすべき。
- ・ EU と同様に 30 ヶ月齢で検査の線引きをするべき。
- ・ 死亡牛検査が 24 ヶ月齢以上なのはなぜか。

SRM とその除去について

- ・ 国ごとに SRM 及びその除去の基準が異なるのは混乱の元ではないかと。
- ・ ピッシングを早期に中止すべき。
- ・ ピッシングによるリスクはどの程度なのか定量的に示すべき。

飼料規制等について

- ・ 飼料検査の強化など飼料規制の実効性を担保する措置を明らかにすべき。
- ・ 交差汚染が起こらないよう飼料規制の実効性確保が重要であり、飼料がどこからどこへ行っているのかを把握すべき。
- ・ 肉骨粉の有効利用について検討すべき。

その他

- ・ 米国産牛肉の輸入再開に当たっては、政治的な状況に左右されずに、科学的に安全性最優先で取り組むべき。
- ・ 早期に米国産牛肉の輸入を再開すべき。
- ・ vCJD の人から人への感染が心配である。
- ・ 意見交換会で出た意見を今後の議論や政策にきちんと反映させてほしい。また、どのように反映されたのかを明らかにすべき。
- ・ メディアが正しい情報を伝えるよう工夫すべき。